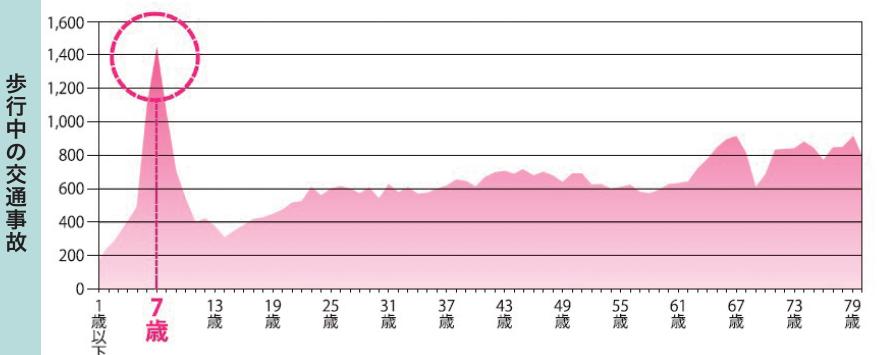


家庭で実践！交通安全教育

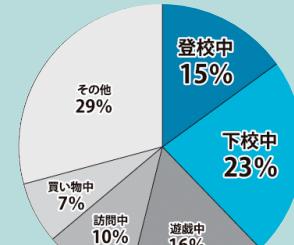
日本交通心理学会 学校・家庭部会

子どもの交通事故の特徴

死傷者数（人）



歩行中の交通事故 死傷者数（平成27年）



小学一年生の歩行中の死傷事故が発生した時の通行目的の構成
(平成27年)

出典：イタルダイインフォメーション
No.116、No.121

小学一年生の登下校中の歩行中の死傷事故における法令違反の構成（第一・第二当事者）

被害者の声はこちら：書籍名『「小さいのち」を守る』（朝日新聞取材班、朝日新聞出版）

さて、上記の子どもの交通事故の特徴として

歩行中の事故は7歳児が最も多く、登下校中に多数発生している傾向にあります。

また、飛び出しや不適切な横断が原因で事故にあうケースが大半を占めています。

そこでこういった事故を防ぐためには、適切な横断方法をお子さん自身に身につけてもらう必要があります。

このリーフレットではお子さんと一緒に楽しく遊びながら「道路の横断方法」を学ぶTable-top モデル法^{※1}を紹介します。

遊びの中からお子さん自身がなぜ？どうして？を考え、理解し、

実際の道路状況の中で正しく行動できるようにしましょう。

今回ご紹介する場面はあくまでも日々の交通状況の一例にすぎないため、

お子さんの理解度に応じて様々な交通状況を想定し、繰り返し学習することが重要になります。

※1 table-top モデル法・・・

交通場面の一例を対象として、お子さんの現在の状況（能力や特徴）を親子で知り、適切な道路の横断方法をお子さん自身が考えながら学習する方法

やり方

家にある空ティッシュ箱や空ケースを使って、車と自分とお友達を作ってみましょう！

道路の手前に自分、反対側にお友達を置いたらスタートです。

お子さんに「〇〇ちゃん（お友達）が道路の向こうから△△くん（ちゃん）を呼んでいるよ。

どうやって行こうか？動かしてやってみよう！」と
声を掛けましょう。

自分と友達に見立てた空きケースを動かしてもらい
お友達のところまで到着したら、

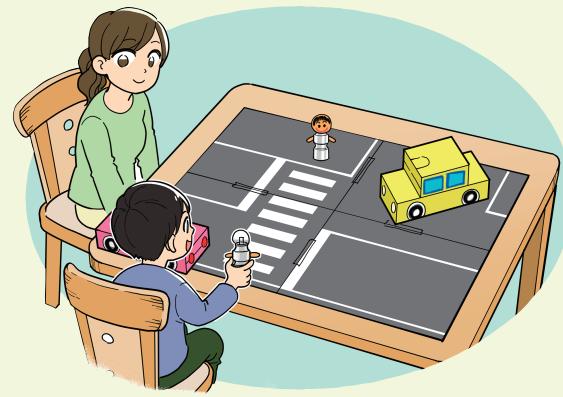
お子さんが動かした通りに保護者が動かして
一緒に振り返ってみましょう！

良い行動ができていた際には褒め、問題となりそうな
行動があった場合にはどうしてその行動をしたのか？

それいたらどうなることが考えられるのか？を

問いかけ考えてもらい、

適切な行動ができるように繰り返し学習してもらうことが重要です。



★車と子どもの縮尺に注意して作成しましょう。

親子で考えてみましょう

1 どこで渡ったらいいのかな？

横断歩道や見通しの良い箇所など、横断する場所の選定のしかたを教えましょう

2 見通しが悪いとどうなるのかな？

見通しが悪いことによって起こり得る
危険な状況を考えてもらいましょう



3 道路に飛び出るとどうなるのかな？

道路に飛び出たら何が起きるか想像して
もらいましょう
(横断する前に止まる習慣をつける)

4 どんなときに渡ったらいいのかな？

横断する際の周囲の確認方法を教えましょう
どんな場所で確認する必要があるのか？
どういう確認のしかたが必要なのか？を
考えてもらいましょう

5 渡る前は何をするのかな？

横断するときに手をあげることの意味を考えてもらいましょう
手をあげる=自分の存在と渡りたいという意図をドライバーに知ってもらうということが重要です
(ただ手をあげれば良いわけではないここまでを理解してもらう)
斜めに横断することは、横断の距離が長くなるため危険度が増すことを理解してもらいましょう

6 让ってもらった人へ感謝をする

お互いを思いやることから安全な交通社会が成り立つということを理解してもらいましょう
(让ってもらったからといって、急いで走らないようにすることも教える)

保護者の皆さんへ

この学習の主体はお子さん自身です。

子ども自身が考えて答えを導き出せるように、保護者の皆さんはサポート役となってください。

また、お子さんの年齢や、発達段階に合わせて教育を行う必要があります。

例えば・・・

低学年のお子さんでは作った空きケースを自身に見立てることや見えない箇所の理解が難しいという特徴があるため、お子さんの視点や目線の高さ、その視線で見えるものが何なのかを十分に理解してもらう必要がありますし、

高学年のお子さんであれば、自分で安全について深く考え方目標を立てられるようになるようサポートしましょう。

普段お子さんと一緒に歩くときなどはその様子を観察し

学習したことを理解し、実践できているかどうか確認していただきながら

本当に危険に直面するような状況が発生した場合には

後回しにせず、その場ですぐに問題点を指摘し、再教育することも重要です。

家で一緒に学習しできたことが実際にできるようになればお子さんの成長を実感できます。

焦らずお子さんと一緒にステップアップていきましょう！

最後に

お子さんの身近なモデルは保護者自身です。

どんな行動をしているかお子さんはよく見ていてます。

お子さんの良いお手本となるような行動をお願いします！

